

Y. N.（社会システム学科・2 年次生）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

そもそも机に向かって英語を勉強することよりも、英語を話すことに楽しさを覚えていたので、日本から出て実際に海外に身を置き生活してみたいという思いがありました。私は高校時代に留学できる機会があったものの、部活を優先し留学しなかったことが心残りだったので、大学入学時点からこの最後の学生生活 4 年間のうちに絶対留学すると心に決めていました。社会システム学科には CASE という英語の授業を全てネイティブの先生から教わることの出来るコースがありますが、自分が CASE 生として日々勉強していたことも留学したい強い気持ちになった理由の 1 つです。夏に大学が主催する TOEFL Camp や放課後の留学英語基礎講座の受講で、自分と同じ志を持った仲間に出会い、刺激を貰えたことも大きかったです。

② 留学決定から出発までの期間

IELTS を受験し、自分の 4 技能の英語レベルを把握したうえで渡豪しました。ビザの申請は英語で様々な質問に答える形式です。項目が多いので早めに始めることをおすすめします。文章を書かなければいけない箇所もあります。私は国際課の方にサポートしていただきながら無事に申請することができました。費用はかかりますが、業者を通して行うことも可能なようです。

③ 現地到着後

私の名前が書いてあるプラカードを掲げた業者の方（大学側が手配して下さいました）に、車でホストファミリーの自宅まで送迎していただきました。私は余裕を持ってオリエンテーションの 2 日前に現地に到着するようにしていました。丸 1 日自由な時間があったので、GO カードを入手できたり、現地を散策する時間があって良かったと思っています。飛行機は遅れることもあるので、余裕を持って入国しておく方が安心かもしれません。オリエンテーション初日は、施設の説明や案内がメインです。どれも現地のスタッフの方々が丁寧に案内してくださるので心配いりません。提出する書類は把握しておくと思います。

④ 語学研修機関

◆ 施設・環境・スタッフ

私のキャンパスは自然に囲まれたこじんまりとしたキャンパスでした。大学内にカフェが 2 か所ほどあり、休み時間にちょっとした軽食を買いに行っている友達も多くいました。City や Garden City などの主要なアクティビティ施設にバスですぐ行けるので、とても便利でした。キャンパスが森に囲まれているので野生のコアラを頻繁にみる機会もありました。また、授業中にクラスで見に行く機会を設けてくださる先生もいました。

◆ 授業内容、課題、試験

クラス内の学生の国籍や年齢は様々です。5 週間ごとにテストの評価によってクラス替えが行われます。私は DEP 5 から始め、途中から DEP6 に上がることができました。

DEP 5 は学生間で話し合う場が多く設けられていて、英語を楽しむことがメインとされていると感じます。Reading/Listening/Writing/Speaking の 4 技能全てのテストがタームの最終週にあります。

DEP6 は 5 と比較すると、よりアカデミックレベルの学習になります。ディスカッションのテーマもより複雑なものでしたし、日々の課題に加えて Assignment が 3 つ出されます。提出物の締め切り日などが事前に全て提示されるので、自分で時間をマネジメントしなければいけません。テストの難易度は DEP 5 より少し上がるほどです。オンラインで受ける文法のテストもありました。

◆ サービスラーニング・コミュニティサービス

ILC（パソコンで行う個人学習ツール）を使って、自己学習ができるシステムも整えられています。DEP 5 や 6 の生徒を対象に、普段の授業後にプラス α で Grammar クラスを受講できる機会があります。文法を主に解説して下さり通常より少人数なのも良かったです。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

- ・現地の空手教室にホストファミリーチャイルドと通っていました。英語で空手を学ぶという貴重な体験ができました（下に写真があります）。
- ・ホストファミリーの経営する、City にあるカフェで早朝 5:30-7:30 までの学校が始まる前の時間帯に、2 か月程ですがお手伝いをさせてもらっていました。
- ・GELI のアクティビティは非常に種類が豊富で、頻繁に参加していました。Café chat ではクラスを超えてお話をしたり、現地の観光地を巡るイベントも多く揃えられていました。動物に関するイベントのボランティアに参加できたのも思い出に残っています。

⑥ 現地での住まいについて

とても素晴らしいホストファミリーでした。手作りのお弁当も用意して持たせてくれました。カフェを経営されているホストダディはもちろんのこと、ホストマザーも料理が好きな方で毎日の食事の時間も楽しみの 1 つでした。大きな家庭菜園をやっていて、バナナの木も植えられていました。大学までもバス一本で行ける距離にあったので、アクセスも良かったです。キャンパス間を無料で行き来できるシャトルバスもあります。

⑦ 長期休暇の過ごし方

ホストファミリーと 4 泊 5 日でシドニー旅行に行きました。飛行機ではなくホストダディが車を出してくれたので片道 10-12 時間かけて移動し、オーストラリアの広大な自然を感じながら旅を満喫できました。私を家族の一員のように扱ってくれ、私が積極的に話せる機会を作ってくれました。写真でしか見たことのないモノを実際に自分の目で見られた時の感動は忘れません。年始に打ち上げられるブリスベンの花火も家族で見に行きました。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

車を持っている友達が沢山いたので、その現地でできた友達と大雨の中 Noosa のビーチを占領したことが一番思い出に残っています。普段は大混雑のビーチですが、その日は大雨で人が全くいませんでした。海に入ったらいずれにせよ濡れるということで、砂浜でサッカーをしたり泳いだりしていました。気づけば3-4時間たっていて、遊び疲れたとても楽しい1日でした。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

私が留学中に最も苦労したことは、手に謎の発疹がでて、現地のクリニックに診察に行かざるを得なかったことです。発疹の原因と思われることなどの説明を全て英語でしなければなりません。クリニックやドラッグストアのお医者さんは、大学の先生のように学生に合わせて丁寧に話してくれることが無く、こちらの知識が無いので全神経を費やしてやりとりしたことを覚えています。普段の日常会話とは程遠いものでしたが、そのような経験も終わってみれば自分の成長へと繋がっていることを感じました。

③ 文化・習慣の違いで驚いたこと

多国籍国家であるオーストラリアに住んでいる人の国籍はさまざま、街やスーパーに行けば英語以外の知らない言語も飛び交っています。買い物の会計の際や道で知らない人に話しかけられたりするのは日常茶飯事で、そこから会話に発展するなんていうことも多々ありました。外国には日本のような空気を読むといった習慣はありません。自分の思ったことは口に出さなければいけませんし、意見があっても口に出さなかったらのみなされてしまいます。今まで出会ったことの無い国の人との出会いが沢山ありました。私が友達になった人からその国のイメージを連想してしまうのと同様に、その人にも私の言動1つで日本人のイメージを植えつけてしまうことになりかねません。日本人の代表として行っているのだという気持ちを持って留学に望んだ方が良いと感じました。

III. 留学志願者へアドバイス

① 日本から持って行って、役に立ったもの

パソコンや USB、バッテリー、パソコンにつなぐタイプのイヤホン、水筒、日焼け止め、サングラスなど。大学にジムが併設されているので、運動靴があったら便利だと思います。

② 語学力の向上等、留学の成果、留学前とあとで変わったこと

帰国後にオンライン英会話を受講し、初対面のネイティブの先生に「あなたは英語がスラスラ話せるみたいだけど、どこかに留学したりした？」と自分から話題を提供していないのにネイティブの先生にそう言って頂けたことで、スピーキング能力が向上していると感じることができました。英語で課題を提出する際も、スラスラと迷わず英文が出てくるようになり、ライティング力も上がったと思います。以上のような言語力の向上はもちろんですが、1つの大きなことを成し遂げたことで自分に自信が生まれたことが一番の大きな

収穫です。何とかなるからとにかくまず挑戦してみる。そこから次に目的意識を持って、目標を掲げて行動するように心がけています。自分の見てきた世界の小ささを身をもって感じ、視野が広がったことで自分の興味の幅も広がりました。その経験から、帰国後は何事も意欲的に取り組むようになりました。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

このページを閲覧して、ほんの少しでも留学したいという思いがあるのなら迷わずに行くべきです。オーストラリアで過ごす毎日が新鮮でした。最後の学生生活 4 年間でかけがえない半年間になったと思います。机に向かって英語と向き合う勉強よりも、現地にいるからこそ出来ること・学び吸収できることが沢山ありました。留学して後悔することはありません。

IV. 将来の目標

日本にいとどうしても英語にふれる機会が減ってしまうので、オンライン英会話や大学の国際課のプログラムを通じて自ら英語に触れる機会を増やしていきたいと思います。また、今まで自分の訪れたことのない国に足を運んでみたいです。将来的には、日本の魅力を海外に発信できるような職業に携わりたいです。

V. 写真

これは私が一番好きだったクラスです。日本人は私 1 人だったので日本語を話す機会がなく、英語力が最も向上した期間でした。クラスのメンバーでよくお昼を食べに行ったり、カラオケで歌ったりしていました。休日には誰かの家に集まり、シェフとして働いている子を中心にみんなで料理を作り、パーティーを行うほど仲良くなりました。



現地の空手教室にホストファミリーの娘さんと通っていた時の写真です（奥の方に私がいます）。先生はオーストラリア出身の方ですが、実際に日本で空手を学び黒帯を所持されているので、とても本格的な指導でした。「先生=Sensei」や「礼=Rey」、数字のカウントは日本語で行うようなこだわりもありました。



M. W.（社会システム学科・2 年次生）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

私は、高校生の時に 3 週間カナダに行き、実際にホームステイを体験し現地の学校に通いました。英語で話すことと他国の文化に触れることがとても楽しかったので、英語をもっと学び、現地の人々ともっと流暢に会話をし、自分の視野を広げられることもできると思ったことがきっかけで、それからずっといつか留学をしたいと考え始めました。

② 留学決定から出発までの期間

長文の勉強とオンライン英会話をする他、リスニングの練習や、現地の情報を調べ、さらにクレジットカードを新しく作りました。

③ 現地到着後

代行の方が空港まで迎えにきて、ホームステイ先まで送ってくれました。約 45 分ほどでした。オリエンテーションでは、学校の施設の案内がありました。

④ 語学研修機関

◆ 施設・環境・スタッフ

これらは全て充実していて、施設は自習室が夜遅くまで利用可能であり、コンピューターなども利用することができました。さらには 24 時間の図書館や、学校内にいくつかカフェもあり、施設もとても綺麗で、スタッフの人々もとても優しいため、快適に過ごすことができました。

◆ 授業内容、課題、試験

クラス内は多国籍なため、それぞれの国を比較することも多く、先生にもよりますが、2 組で話し合う機会などが比較的多かったです。課題は DEP 6 のクラスになると多いですが、DEP 5 では少なかったです。試験は、4 技能試験がありました。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

古着を売るボランティアに参加しました。現地の人と話す良い機会であり、さらに自分自身も古着を買うことができるのでよかったです。

⑥ 現地での住まいについて

私のホストファミリーはイギリス人で、マザー、ファザー、ブラザー、そしてエクアドル、ベトナム、韓国の留学生と一緒に生活しました。ホームステイ先から学校までは、バスとトラム（路面電車）を利用して約 45 分でした。食事に関しては、両親が料理好きで、毎日とても美味しかったです。苦手なものに関しては、事前に伝えるので出てくることはなかったです。また、家族みんながおしゃべりだったので毎日家が賑やかで、夕食の後もみんなでお喋りしたり、ファザーの陽気な歌声が聞こえてきたりと、とにかく明るい家庭でした。

⑦ 長期休暇の過ごし方

基本的に現地ですでた友人たちとクリスマスイベントに行くなど、年越しも友人たちとビーチで花火を見ながら過ごしました。また、シドニーへ二泊三日で旅行に行きました。

Ⅱ. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

私は、友人たちと一緒にオーストラリアの建国記念日に開かれたイベントに行ったことが印象に残っています。そのイベントにはたくさんの人々がオーストラリアの旗を持ち、頬にシールをつけたりと、それぞれオーストラリアを象徴するものを身につけていました。そして、夜には花火があり、ゴールドコーストでは新年よりもかなり迫力のある花火が何発も上がり、とても綺麗でした。国籍問わず、みんなで建国を祝っていたのが印象的でした。日本にはこのようなイベントはないので新鮮でとても楽しかったです。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

正直つらかったことは特にありませんが、車から卵をぶつけられた時はあまりにも突然のことで驚き、初めてのことであったので少し悲しかったです。それ以外にも、やはりたまに差別らしき発言を受けたりはしますが、私自身あまり気にしないようにしていました。その他の面では、ホストファミリーや友人にも恵まれてとても充実していました。

③ 文化・習慣の違いで驚いたこと

街を普通に裸足で歩いている人が多くて初めはとてもびっくりしました。やはり、ビーチが近いという理由もあるのですが、ショッピングモールでもたまに見かけました。

Ⅲ. 留学志願者へアドバイス

① 日本から持って行って、役に立ったもの

日本の薬、小さなタコ足洗濯バサミ、変換プラグ、海外対応のドライヤーがあると便利です。パソコンは授業でPPTを作ることも多かったので持っていくと便利です。

② 語学力の向上等、留学の成果、留学前とあとで変わったこと

語学力では、やはり、毎日友人やホストファミリーと英語で会話をする中で、スピーキング力、リスニング力が身につきました。そして、間違いを恐れず話すということと、積極的に英語を話す力が身についたことにより、クラスでの話し合いの際にも積極的に発言をしていくことで積極性も身につきました。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

もし迷っているのであれば、必ず挑戦してみてください。もちろん、不安なことも多いかもしれませんが、その分得る物は思っているよりもはるかに多いです。そして、留学後には必ず、留学してよかったと心から思えると思います。学生だからこそできることがたくさんあり、様々な国籍の友人たちと話す、たくさんの考え方や見方に触れることができます。このような機会はなかなかないと思います。自分自身の成長に必ずつながると思うので、ぜひ挑戦してみてください。

IV. 将来の目標

私は将来 TOEIC 試験で 800 点を取ることを目標にしています。そして、将来仕事でも英語を使う機会があればと考えています。

V. 写真



Australia day（建国記念日）の様子



友人たちとカランビンビーチというところでパドルボードを体験した様子



ドリームワールドに行った際に、動物のエリアにいたコアラ
(この後運よくコアラに触れることができました)

M. A.（英語英文学科・2 年次生）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由（留学を目指したきっかけ、留学を考え始めた時期）

高校 1 年生の時に短期英語研修で 1 ヶ月英国へ留学した経験から、もう一度より長期間で違う国にステイしてみたいと考えていた。1 回生の時に留学について考えてはいたが、実際に行こうと決めて下調べを本格的に始めたのは 2 回生になってすぐ。

② 留学決定から出発までの準備期間

秋学期に留学を始める予定だったため、夏季休暇が終わっても少しだけ休みが続いた。その期間に怠けることのないように単語の暗記やよく使うフレーズを調べておくことが重要。オーストラリアのビザ申請手続きはオンラインで記入しなければならない事項が多く、最初は戸惑ったが、意外とすんなりできた。

③ 現地到着後

AHN というホームステイ会社が手配する（有料）空港出迎えサービスを利用して、空港からステイ先まで車で送っていただいた。到着した直後はバスの利用方法や Uber の使い方などが全くわからないだろうから、このサービスを利用することをお薦めする。

私のステイ先はブリスベン空港から車で 40 分程度だった。

GELI の初日は、5 階へ行って学生証を発行してもらうので、その際にはパスポートや必要な書類は必ず持参すること。オリエンテーションでは大きな教室に新入生が全て集められ、全体で様々な説明があった後にお互いに自己紹介をする時間があった。最後にキャンパスツアーがある。

④ 語学研修機関

◆ 施設・環境・スタッフ

施設は割と大きく、マウントグラバットキャンパスの周りは自然に囲まれているため、たまに野生のコアラを観察することが出来る。気候も日本と比べて湿気が少ないので、暑い日もあるが比較的過ごしやすい。会員登録して支払えばジムに通うことが出来て、プールも使用可能である。先生方は個性あふれる素敵な人達ばかりで、何かあれば何でも相談すればすぐに対応して下さる。

◆ 授業内容、課題、試験

同じレベルの授業でも、先生によってやり方は様々。プレゼンテーションを学生たちによくさせる、そしてゲームのような方法で楽しみながら又は話す機会を増やしなごらなど、先生それぞれが工夫して授業して下さる。課題はレベルによって出される量や難易度は異なり、上のレベルに行くほど多く難しくなる。試験はレベルによって実施方法が異なる。教室でクラスごとに行う又は大きい教室でクラスをいくつかまとめて行ったりする。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

語学学校にはクラブはなく、近くにある大学で申し込むと入ることが出来る。語学学校主催のアクティビティがたくさんあるので、それに申し込むとクラスメイト以外でも交友関

係を広げられて、新しいことに挑戦できる。アクティビティの中でボランティア活動に申し込むことも可能である。これ以外にも、大学のメールにボランティア活動の紹介がくるので、そちらで参加しても良い。

⑥ 現地での住まいについて

ホームステイ先はマザーが1人で住んでおられる家庭だったので、とても静かで快適に過ごすことが出来た。その家ではバスルームと洗面所が3つあったので、もう1人留学生がステイしていても、使用の際にタイミングが被ることはほとんどなく助かった。マザーがイタリアのアイデンティティを持っているので、イタリア料理を中心に、中国料理などを出してくださった。お菓子作りが趣味だったので、よく作ってくださったりもした。通学時間はトータル40分くらいで、バスは1本だけで通えた。家から最寄りのバス停が徒歩1分程であったことはとても助かった。かなり待遇の良いホームステイ先に出会えたが、このケースは非常にレアだと思われる。

⑦ 長期休暇の過ごし方

年末から正月にかけて日本から家族が来たので、一緒にオーストラリア内を旅行した。クリスマスはマザーの娘や息子たちの家族と過ごし、プレゼント交換やレストランに集まって夕食を共にした。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も印象に残っていること

色んな国の友人ができたこと。今まで全く関わりのなかった国の方と出会い、新しいことを知れて様々な異文化に触れることができた。オーストラリアで出会った他国の友人たちといろんな場所に遊びに行ったこと、マザーやその娘家族と過ごした日々が一番心に残っている。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

最初のホームステイ先で問題があり、出ていかなければならなかった時は非常に不安でつらかった。最も苦労したことは、それぞれの国の英語の発音に強い癖があったため聞き取れるようになるまで時間がかかったことである。また、マザーや友人、その娘家族ら同士の会話のスピードが速く、そしてオーストラリア訛りが強いので会話に入るまえに話題が次が変わってしまう状況が多くあった。

③ 文化・習慣などの違いで驚いたこと

バスをよく利用していたのだが、語学学校までバスで40分かかるのに対して車だと10分前後で済むと知り、公共交通機関は便利ではないなと感じた。加えてバスにはアナウンスや停車駅の表などは一切ないので、必ず自分が降りるバス停の景色を覚えて少し前に停車ボタンを押さなければならない。最初はほとんど分からず反対方向行きに乗ってしまい、初日の授業に遅れてしまったことがあるので当日までにマザーとよく確認しておくことが大切だと思う。オーストラリアでは水が非常に貴重なのでシャワーの時間がとても短いとは知っていたが、マザーがいつも5分以内で終わらせていたので驚いた。外でも裸足

で歩いている人の光景を見た時は非常に驚いたが次第に慣れた。

Ⅲ.留学志望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンは必須。機内持ち込みになるので、なるべく軽くて丈夫なノートパソコンをお勧めする。普段使っている化粧水や乳液、洗顔や化粧品などは予備も持参したのでいつも通りのスキンケアをすることが出来た。人によるが、私は硬水で顔の肌が少し荒れてしまったのでいつものを使って保湿することが出来て良かったと思う。かなり暑い日も続くので、スニーカーだけではなくサンダルもよく履いた。紫外線が非常に強力なので SPF 高めの日焼け止めとサングラスは必須。

② 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

まず耳から鍛えられるのでリスニングでの向上がわかりやすいと思う。時間があれば異国の友人やマザーと話し、段々と会話が出来るとピックも増えていった。人それぞれだが、ライティングも目に見えてわかるように鍛えられる。授業外でも地道な練習はとても大切である。特に語学学校の HP から使える英語 4 技能に特化したサイトはとても役に立った。さらにプレゼンテーションを積み重ねて行った経験から、人前で発表することに対して少し自信がついた。ホームステイで他人と生活することにより、生活サイクルが改善されたことも大きな収穫の 1 つである。なによりも自立心が育ち、自ら進んで手伝っていると自然と出来ることが増えていった。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

半年は長く思うかもしれないが、実際に滞在していると一瞬で過ぎる。それゆえ、的確に日々目標を持って過ごさないとあっという間に留学が終了してしまうだろう。また、オーストラリアは留学先としてとても人気なので他の日本人学生もたくさんいる。だがそこで日本人同士集まらず、自分自身を必ず英語を話す状況に追い込むことは重要である。

Ⅳ.将来の目標

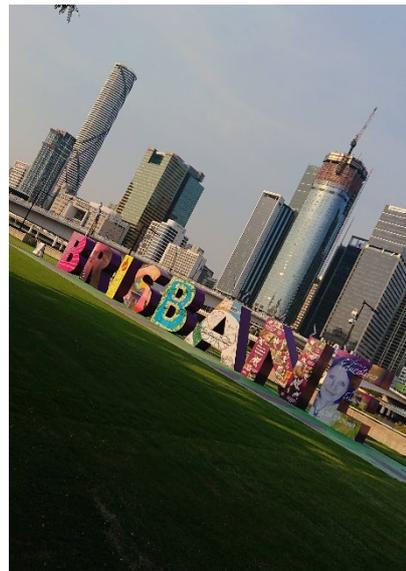
特にやりたいことははっきりと決まっておらず、英語を通じて人と人を繋ぐ仕事に就きたいと考えている。今すべきことは TOEIC の点数を出来る限り上げておき、語学力を向上させることである。

V. 写真



←Cityにあるジェラート屋で、少し値段は高いが本格的なジェラートを手軽に楽しむことができる。特に気温が高い日は並んでいる人が多い。値段相応の美味しさと量を提供してくれる。

→South Banckにある Brisbane のモニュメント。ここはとても有名な場所で観光客がよく写真を撮っている。このすぐ近くに無料で入館できる美術館や人工ビーチ、土日のみだが開催しているマーケットもある。モニュメントのすぐ向こう側は大きな川が流れており、そこでフェリーに乗ることもできる。



H. K.（英語英文学科・2 年次生）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

高校生のころから大学では留学をしたいという強い思いがありました。将来の夢である英語の先生に一步でも近づきたい気持ちもあり、その面でも留学はたくさんを経験でき、自分の成長とともに将来に生かせるだろうと思ったからです。

② 留学決定から出発までの期間

留学が決定したのは5月末くらいで、日常的な英語を身に付けるようにしていました。ビザは8月にインターネットで申請しました。

③ 現地到着後

国際課を通して、空港から家までの送迎を付けました。私が利用したのはブリスベン空港だったのですが、車で一時間ほどでした。ゴールドコースト空港であれば、もっと早く着くと思います。オリエンテーションは二日間ありました。

④ 語学研修機関

◆ 施設・環境・スタッフ

施設はきれいで、水が自由にくめるところが多数設置されています。キャンパス内は七色だったり見たことのない鳥などをたくさん見ることができ、自然豊かです。コアラが出現したこともありました。そしてなんといってもスタッフや先生がとても親切で、親身になって接してくれます。学生へのケアはしっかりしています。

◆ 授業内容、課題、試験

授業は朝 8 時 15 分から始まり、2 時間の授業が 2 コマあります。12 時 45 分には終わり、そのあと、参加自由の文法や発音のクラスがあります。課題はクラスのレベルによって量や内容が違いますが、基本的に上のクラスは宿題も多く、アカデミックよりです。試験は5週間ごとにあり、Speaking, Listening, Writing, Reading があります。そのスコアによって、クラスが上がるかが決まります。

◆ サービスラーニング・コミュニティサービス

GELI（語学機関）にはアクティビティというものがあり、みんなでどこかに行ったり、体験したりします。そこで新しく友達が出来たりするのでお勧めです。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

アクティビティの一環でボランティア活動をしました。大きい会場で、衣類を全部 2 ドルで売るイベントのボランティアです。私は袋詰め、レジ、服の前出しなどをしました。たくさんの人と関わることができ、楽しかったです。

⑥ 現地での住まいについて

ホームステイ先はとても優しく素敵で、すごくよくしてもらっていました。基本的にキッチンや冷蔵庫など好きなように利用でき、快適でした。ホストマザーが料理上手

で、毎日とてもおいしいディナーを食べていました。私が好きだったのは、ラム肉と、タコスとマッシュポテトにチーズを混ぜたものです。家から学校に着くまでは30分くらいでした。また家から最寄りの駅までは徒歩15分くらいで、家の近くにバス停はなく、徒歩しか手段はありませんでした。でもそれがいい運動で、もしそれだけ毎日歩いてなかったら、今よりだいぶ太っていた気がします。

⑦ 長期休暇の過ごし方

長期休暇は12月後半から1月前半の2週間ほどだったのですが、私は家でホストファミリーの家族と過ごしました。息子のウェディングが行われたこともあり、家には10人くらいが泊まっていたので、にぎやかで楽しかったです。年末には、友達とシドニーへカウントダウン花火を見に旅行に行きました。ゴールドコーストとはまた違うオーストラリアの一部を見れた気がします。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

楽しかったことはたくさんあるのですが、その中の一つがクリスマスキャロルというイベントです。友達やホストファミリーと行ったのですが、あの空間がすごく好きでした。家族がしゃべったり、クリスマスソングを聞いたり、子どもが踊ったり、すごく温かい空間でした。また、海で泳ぐことも楽しかったです。ゴールドコーストの海はとてもきれいでビーチの砂がとてもサラサラです。かなりの頻度で海に行っていました。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

言いたいことが言えなかったり、話の内容がわからなかったりする時に苦労し、悔しかったです。でもわからないものは分からないので、その悔しさをバネに頑張っていました。

③ 文化・習慣の違いで驚いたこと

お酒を一定量飲んでも車を運転できることです。ホストファミリーとご飯を食べに行った時にみんながワインを飲んだので、誰が運転するのかと思いきや、ホストファザーが運転したのでびっくりしました。

III. 留学志願者へアドバイス

① 日本から持って行って、役に立ったもの

パソコンはなくても生活はできるのですが、あった方が断然楽だと思います。留学先にダイソーがあったので日本のものは大体そろえると思うのですが、値段が倍ほど、ものによってはそれ以上かかるので、できるだけ買っていくことをお勧めします。個人的には洗濯用ネット、圧縮袋、ショルダーバッグ、USB、電子辞書などです。

② 語学力の向上等、留学の成果、留学前とあとで変わったこと

確実に言えることは自信がついたということです。留学前では、英語を話すとき間違ったらどうしようなど弱気な自分がいたのですが、留学後はリスニングやスピーキングが以前より向上したこともあり、堂々と話せるようになった気がします。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

「できることは何でも挑戦する」ということを伝えたいです。留学に行く前や行っている間、もしやろうか迷っていることがあれば、ぜひトライしてみてください。それがたとえ失敗しても、あなたにとってマイナスになることはありません。

IV. 将来の目標

冒頭でも述べたのですが、私は英語の先生を目指しています。どうやったら子どもたちにわかりやすく楽しく英語を教えられるか、英語の本質など学んでいきたいと思います。立派な教師になれるよう、今以上に励み、頑張ります。

V. 写真



ゴールドコーストの海は本当にきれいで、真夏に入るととても気持ちいいです。サーフィンをしている人もたくさんいます。ぜひ授業が終わった後や土日に行ってみてください！



ブリスベンでテニスの試合を見に行きました。世界から選手が集まっていて、決勝戦を見に行きました。大坂なおみが見れるはずだったので残念でした（笑）。でもこんなに近くでプロのテニスを見れたのは初めてで興奮しました！

A. M.（英語英文学科・2 年次生）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

英語の勉強がどの科目よりも好きで、もっと伸ばしたいと思っていました。高校生の中から留学に憧れはありましたが、大学生になってから留学をより現実的に考えるようになりました。

② 留学決定から出発までの準備期間（語学勉強、ビザ申請手続きなど）

勉強面では、TOEIC の勉強など毎日何か英語に触れるようにしていました。特に英語の音に耳が慣れるように、リスニングを意識して取り組んでいました。英語の勉強はもちろん、日本の文化についても勉強しました。事務的な準備に関して、ビザ申請は大切な手続きのため、できるだけ余裕を持って準備するようにしました。

③ 現地到着後（空港からの移動手段・時間、オリエンテーション、諸手続きなど）

現地の空港から送迎の方にホームステイ先まで送ってもらいました。その後ホストファミリーが買い物に連れていってくれ、また学校への道のりを教えてくれました。オリエンテーション当日は事務手続きや校内ツアー、その他授業の説明がありました。

④ 語学研修機関

◆施設・環境・スタッフ

語学学校は大学の敷地内にあり、現地の大学生と同じように施設を使うことができました。建物も綺麗で学校周辺も駅やスーパーがあり便利でした。

◆授業内容、課題、試験

授業はディスカッションやプレゼン、ディベートなどが行われました。またクラスによっては新聞記事を要約するなどの課題もありました。試験に関しては、5 週間ごとにテストが行われ、その結果でクラス替えがありました。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

語学学校には様々なアクティビティイベントがあり、有名な観光地にみんなで行ったり、イベントを楽しんだり、ボランティアにも参加しました。

⑥ 現地での住まいについて（ホームステイ、設備、食事内容、通学距離・時間など）

ホストファミリーは優しくとても居心地が良かったです。食事もパスタやピザ、チキンなど、様々な料理を楽しみました。学校までは職場が近かったホストファミリーが車で送ってくれたため、15 分程度で通学できました。バス停も家から1分ほどのところにあり、便利でした。

⑦ 長期休暇の過ごし方

長期休暇にはホストファミリーとイベントを楽しみ、また年越しにはシドニーに旅行に行きました。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

留学での一番の思い出は、英語力はもちろん、海外の友達ができただけでなく、言語学校には英語を学びにさまざまな国から留学生がきており、留学先だけでなく様々な国の文化を知ることができ、また様々な考え方、価値観を感じることができました。留学後も連絡を取り合えることができるような海外の友達ができただけでなく、留学がなければできなかったかもしれません。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

留学初期はまだ英語力も十分になく、伝えたいことがあってもうまく伝えられなかったことです。日本語と同じ意味を持つ英語が必ずしもあるとは限らず、細かな意味の伝え方が難しかったです。またホストファミリーと会話をしているときに、質問に答えるだけでなく、そこから話題を広げられなかったときは悔しかったです。しかしそこで諦めずに伝えようとすることで、徐々に力がついてくるのだと思いました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

オーストラリアでは、環境に優しい、エコを意識した取り組みが多いように感じました。例えばマイバックを持つ人が多く、ほかにはマイボトルなども多くの人が持っていました。またほとんどのお店がプラスチックでなく紙ストローを利用していました。他にはゴールドコーストが海に近かったこともあり、道端だけでなくスーパーなどでも裸足で歩いている人を見かけたときは驚きました。

III. 留学希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

パソコンは学校のものを使用することができますが、プレゼンの準備などでパソコンを使う機会も多いため、自分のものをよく使っていました。パソコンと一緒に USB もあると便利です。またホームステイ生活でよく使ったものは、部屋で履くスリッパです。日本のように玄関で靴を脱ぐ習慣がありませんでしたが、室内はスニーカーなどより楽なスリッパで生活していました。

② 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

留学をして最も感じたことは、英語に関する抵抗がなくなったことです。長い英文をみても抵抗なく読むことができるようになり、ネイティブと話すときは以前より緊張することがなくなりました。むしろ英語をもっと使いたいと思うようになりました。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学は誰もがができるものではありません。その貴重なチャンスをどのように生かすかは自分次第です。ただ海外に行って満足するのではなく、自分が留学で何を得たいのか、目標や夢を忘れず時間を有効活用してください。留学で得たものは、語学力だけでなく、友達も含め、一生の財産になると思います。慣れない生活で不安やストレスもあるかもしれませんが、それ以上の自信や思い出ができると思います。失敗を恐れず充実した濃い時間を

過ごしてください。

IV. 将来の目標

将来何になりたいのか具体的には決まっていますが、漠然と英語を少しでも使う仕事に就きたいという思いから今回留学を決めました。実際に留学をしてその思いがさらに強くなりました。海外で働くことも興味がありますが、海外と日本の橋渡しができるような仕事にも関わりたいです。この留学が活かせるようなことをしたいと思います。

V. 写真



ゴールドコーストにはたくさんのビーチがありますが、その中でもお気に入りの Burleigh Heads という場所です。海の広さ、青さを一望できるだけでなく、爽やかな風も感じられることができる最高の場所です。



ホームステイは留学生活の中でも大切な思い出です。多くのオーストラリアの家にはバーベキュー機材が置いてあったり、プールがあり、家でも楽しめることがたくさんありました。